

令和5年度 春学期
授業評価アンケート結果

令和5年10月6日
滋賀文教短期大学

1. 目次

ページ	内容
1	1. 目次
1	2. 授業アンケートについて
2	3. 授業アンケート質問項目
3	4. 授業アンケート集計結果
4	(1) 全学
4	(2) 国文学科全体
5	(3) 国文学科1年生
6	(4) 国文学科2年生
7	(5) 子ども学科全体
8	(6) 子ども学科1年生
9	(7) 子ども学科2年生
10	5. 全学的考察
11	(1) 授業アンケート結果について
11	(2) 授業の質向上のために
12	6. 国文学科全体の考察
13	(1) 授業アンケート結果について
13	(2) 授業の質向上のために
13	7. 子ども学科全体の考察
15	(1) 授業アンケート結果について
15	(2) 授業の質向上のために
15	8. 授業アンケート回答率の推移

2. 授業アンケートについて

■概要

本学では、実習科目を除く全科目の14回目または15回目で約10分程度の時間を設け、授業アンケートを実施している。学生は、学生ポータルサイトからアンケートに無記名式で回答する。

■実施期間

学年暦において14回目または15回目の授業内で授業アンケートを実施する。

春学期開講科目は、令和5年7月17日～令和5年8月11日に実施した。

■授業アンケートの活用

授業アンケートの集計結果（学務課教務担当による集計）、科目レベルの学修成果の査定結果（授業アンケートによる学生の達成実感度と科目GPAによる査定）の主に2点をふまえて、授業検討票に省察を記録する。

本学の科目レベルの査定においては、学生の達成実感度60%以上かつ、科目GPAが2.00から3.00までのときを、望ましい水準とアセスメント・プランに定めている。

これらをふまえて、科目担当教員は授業に関してどのような工夫をすれば学生がより学修成果を獲得できるかを検討し、次年度に向けたシラバス改善案を記録する。

さらに、全科目の授業アンケート結果や授業検討票をもとに、各学科の総評を学科長が、全学的総評をFD委員長が行う。このような取り組みにより、科目レベルだけでなく組織的に授業のさらなる質向上に努めている。

授業アンケートの結果は、概要を本学ホームページで過去3年間分、学生ポータルサイトで自由記述欄以外の数値を公開している。また、授業検討票は閉架式にて学務課教務にて保管し、閲覧希望者に開示している。

3. 授業アンケート質問項目

選択式の質問1～8は回答必須とし、自由記述欄である質問9については任意による回答とした。
質問と回答の選択肢を下記に引用する。

1. あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。【単一選択式】

シラバス記載の到達目標のうち、関連するディプロマポリシーにおいてカリキュラムマップ上で二重丸がついているものが科目担当教員から学生に1つだけ提示されます。

- ①達成できた ②おおむね達成できた ③達成できなかった

2. 授業内容は興味・関心が持てましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

3. 授業内容をよく理解できましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

4. この授業はシラバスに沿った内容でしたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

5. 学生の理解を促す工夫がなされていきましたか。【単一選択式】

(言葉による説明だけではなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク)

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

6. 工夫してほしいと感じたことを選んでください。【複数選択式】

- ①特になし ②分かりやすいパワーポイントや板書 ③教科書・配布資料の活用
④聞き取りやすい話し方 ⑤私語への対応

7. 教員は学生の理解や反応を見ながら授業を進めていましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

8. あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に1週間あたりどのくらいかけましたか。【単一選択式】

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等）

- ①3時間以上 ②2時間以上3時間未満 ③1時間以上2時間未満
④30分以上1時間未満 ⑤30分未満

9. あなたがこの授業を受ける中で感じた良かった点や改善してほしい点があれば、記述してください。

(特に記述することが無い場合は空欄のまま問題ありません)

自由記述欄

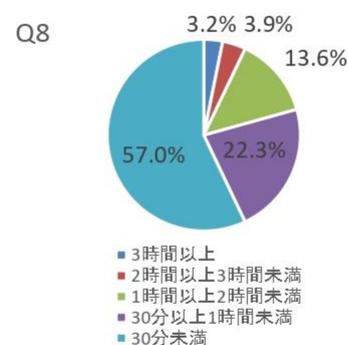
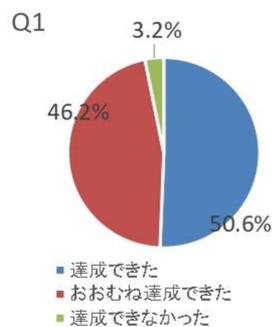
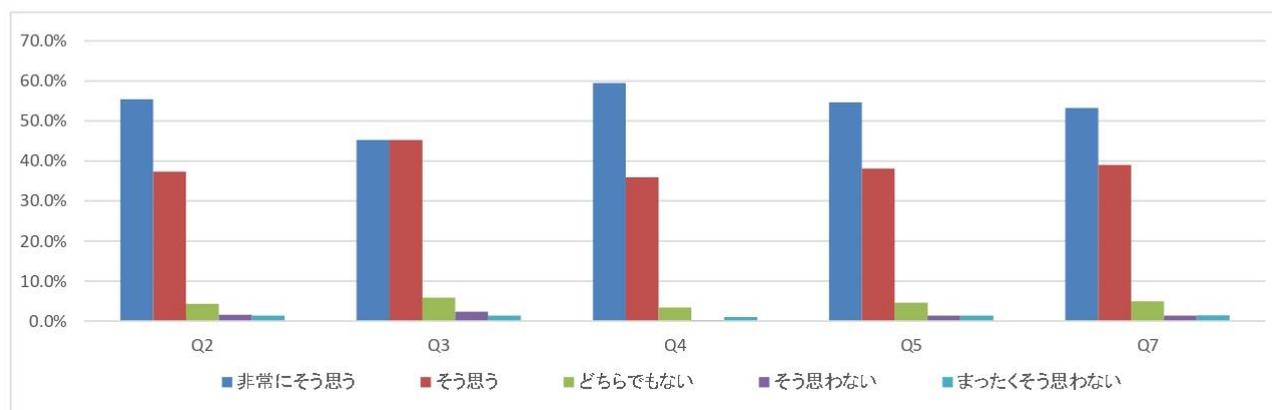
4 - (1). 授業アンケート集計結果 (全学)

●全体集計

受講人数	回収数	回収率
1497	1331	88.9%

	1	2	3	4	5	計
Q1	674	615	42	-	-	1331
Q2	738	497	57	21	18	1331
Q3	602	602	78	31	18	1331
Q4	792	478	45	3	13	1331
Q5	727	507	61	18	18	1331
Q6	13	88	55	85	1175	1416
Q7	709	519	66	18	19	1331
Q8	42	52	181	297	759	1331

	1	2	3	4	5	計
Q1	50.6%	46.2%	3.2%	-	-	100.0%
Q2	55.4%	37.3%	4.3%	1.6%	1.4%	100.0%
Q3	45.2%	45.2%	5.9%	2.3%	1.4%	100.0%
Q4	59.5%	35.9%	3.4%	0.2%	1.0%	100.0%
Q5	54.6%	38.1%	4.6%	1.4%	1.4%	100.0%
Q6	0.9%	6.2%	3.9%	6.0%	83.0%	100.0%
Q7	53.3%	39.0%	5.0%	1.4%	1.4%	100.0%
Q8	3.2%	3.9%	13.6%	22.3%	57.0%	100.0%



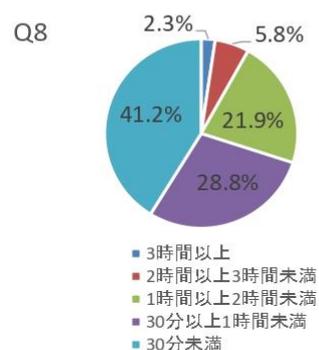
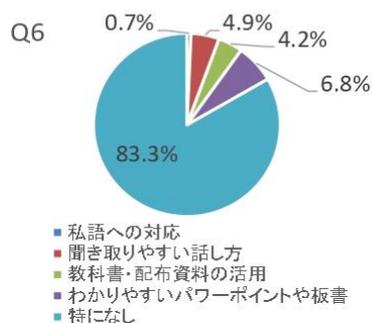
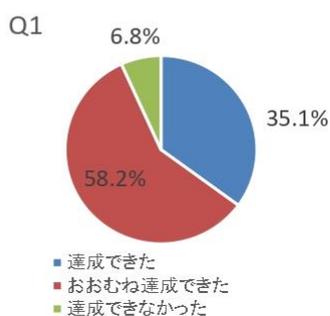
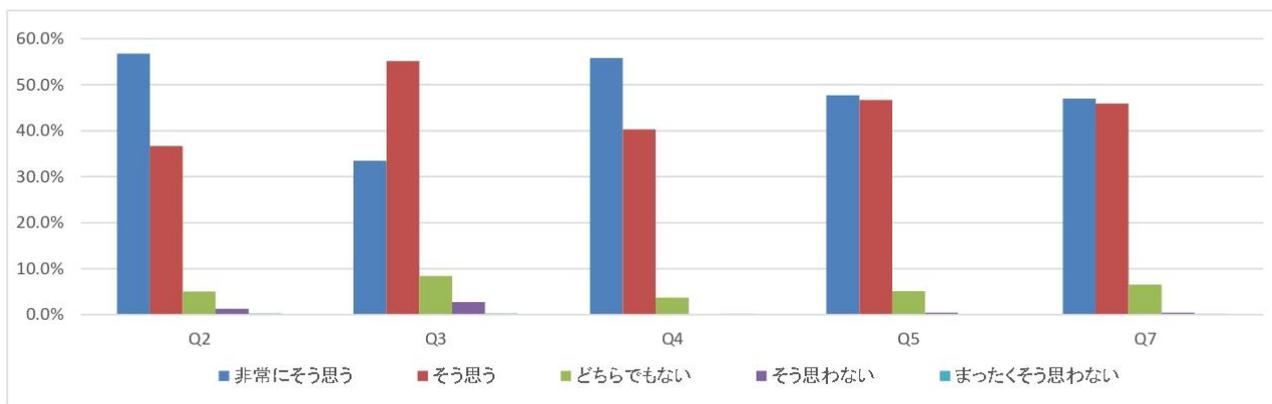
4 - (2). 授業アンケート集計結果 (国文学科全体)

●国文学科全体集計

受講人数	回収数	回収率
452	447	98.9%

	1	2	3	4	5	計
Q1	156	261	30	-	-	447
Q2	256	161	24	5	1	447
Q3	146	249	39	12	1	447
Q4	246	183	17	0	1	447
Q5	215	206	24	2	0	447
Q6	4	25	21	35	395	480
Q7	212	203	29	2	1	447
Q8	10	27	98	128	184	447

	1	2	3	4	5	計
Q1	35.1%	58.2%	6.8%	-	-	100.0%
Q2	56.7%	36.7%	5.0%	1.3%	0.3%	100.0%
Q3	33.5%	55.1%	8.4%	2.7%	0.3%	100.0%
Q4	55.8%	40.3%	3.7%	0.0%	0.2%	100.0%
Q5	47.7%	46.7%	5.1%	0.5%	0.0%	100.0%
Q6	0.7%	4.9%	4.2%	6.8%	83.3%	100.0%
Q7	47.0%	45.9%	6.5%	0.5%	0.2%	100.0%
Q8	2.3%	5.8%	21.9%	28.8%	41.2%	100.0%



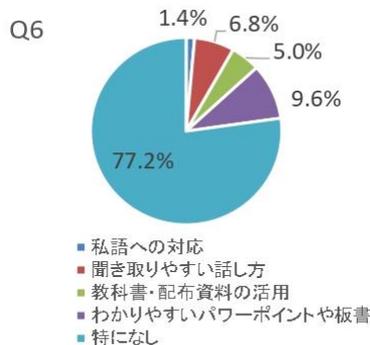
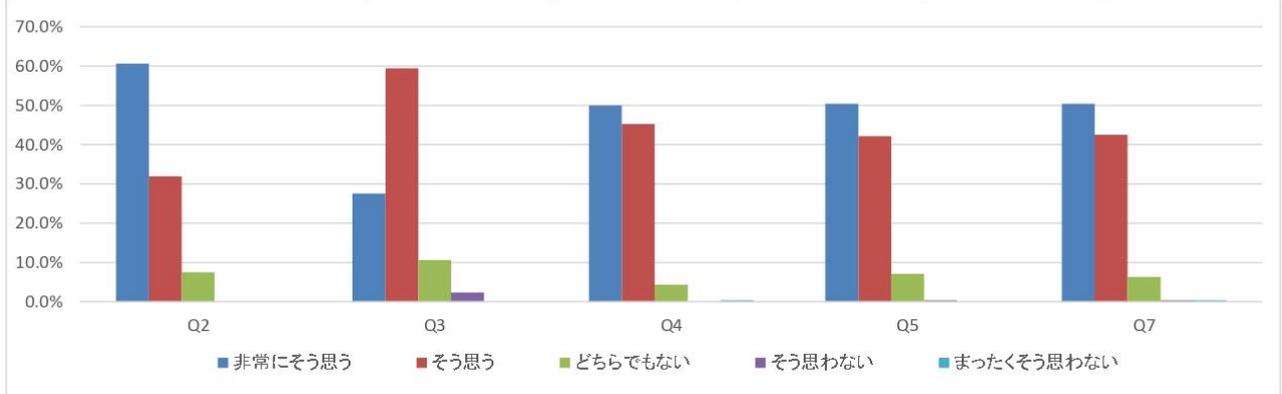
4 - (3). 授業アンケート集計結果 (国文学科1年生)

●国文学科1年次生集計

受講人数	回収数	回収率
257	254	98.8%

	1	2	3	4	5	計
Q1	86	152	16	-	-	254
Q2	154	81	19	0	0	254
Q3	70	151	27	6	0	254
Q4	127	115	11	0	1	254
Q5	128	107	18	1	0	254
Q6	4	19	14	27	217	281
Q7	128	108	16	1	1	254
Q8	4	20	56	70	104	254

	1	2	3	4	5	計
Q1	33.9%	59.8%	6.3%	-	-	100.0%
Q2	60.6%	31.9%	7.5%	0.0%	0.0%	100.0%
Q3	27.6%	59.4%	10.6%	2.4%	0.0%	100.0%
Q4	50.0%	45.3%	4.3%	0.0%	0.4%	100.0%
Q5	50.4%	42.1%	7.1%	0.4%	0.0%	100.0%
Q6	1.4%	6.8%	5.0%	9.6%	77.2%	100.0%
Q7	50.4%	42.5%	6.3%	0.4%	0.4%	100.0%
Q8	1.6%	7.9%	22.0%	27.6%	40.9%	100.0%



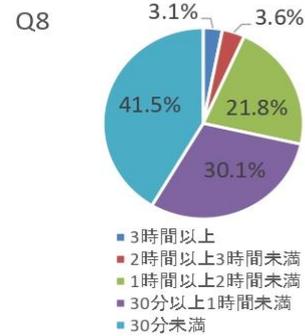
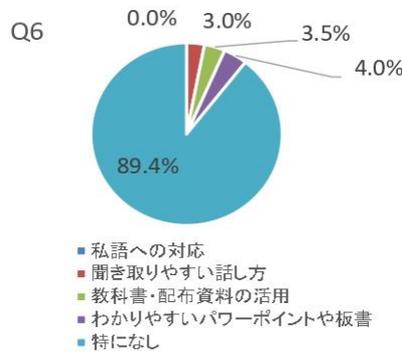
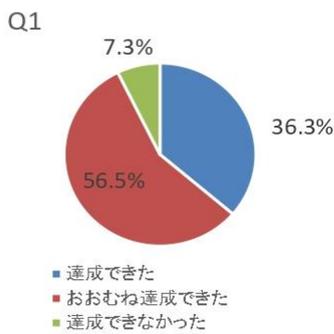
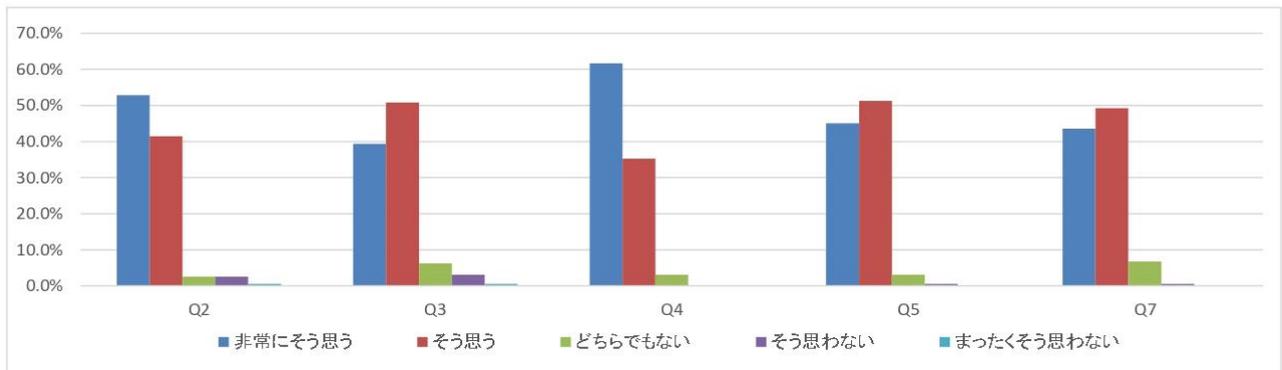
4 - (4). 授業アンケート集計結果 (国文学科2年生)

●国文学科2年次生集計

受講人数	回収数	回収率
195	193	99.0%

	1	2	3	4	5	計
Q1	70	109	14	-	-	193
Q2	102	80	5	5	1	193
Q3	76	98	12	6	1	193
Q4	119	68	6	0	0	193
Q5	87	99	6	1	0	193
Q6	0	6	7	8	178	199
Q7	84	95	13	1	0	193
Q8	6	7	42	58	80	193

	1	2	3	4	5	計
Q1	36.3%	56.5%	7.3%	-	-	100.0%
Q2	52.8%	41.5%	2.6%	2.6%	0.5%	100.0%
Q3	39.4%	50.8%	6.2%	3.1%	0.5%	100.0%
Q4	61.7%	35.2%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%
Q5	45.1%	51.3%	3.1%	0.5%	0.0%	100.0%
Q6	0.0%	3.0%	3.5%	4.0%	89.4%	100.0%
Q7	43.5%	49.2%	6.7%	0.5%	0.0%	100.0%
Q8	3.1%	3.6%	21.8%	30.1%	41.5%	100.0%



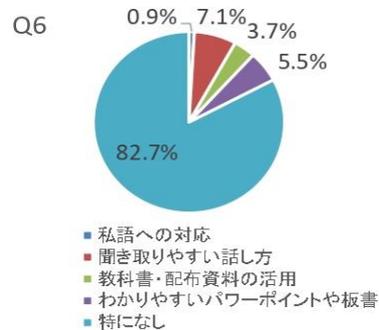
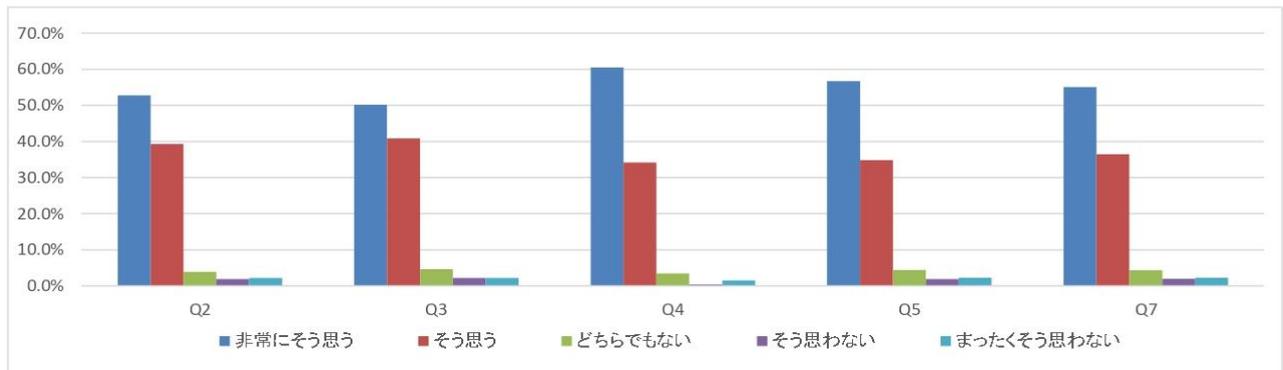
4 - (5). 授業アンケート集計結果 (子ども学科全体)

●子ども学科全体集計

受講人数	回収数	回収率
1045	884	84.6%

	1	2	3	4	5	計
Q1	518	354	12	-	-	884
Q2	482	336	33	16	17	884
Q3	456	353	39	19	17	884
Q4	546	295	28	3	12	884
Q5	512	301	37	16	18	884
Q6	9	63	34	50	780	936
Q7	497	316	37	16	18	884
Q8	32	25	83	169	575	884

	1	2	3	4	5	計
Q1	57.3%	41.2%	1.5%	-	-	100.0%
Q2	52.7%	39.3%	3.9%	1.9%	2.1%	100.0%
Q3	50.1%	40.9%	4.6%	2.2%	2.1%	100.0%
Q4	60.5%	34.2%	3.4%	0.4%	1.5%	100.0%
Q5	56.7%	34.8%	4.4%	1.9%	2.2%	100.0%
Q6	0.9%	7.1%	3.7%	5.5%	82.7%	100.0%
Q7	55.0%	36.4%	4.4%	1.9%	2.2%	100.0%
Q8	3.5%	3.0%	9.9%	19.7%	63.9%	100.0%



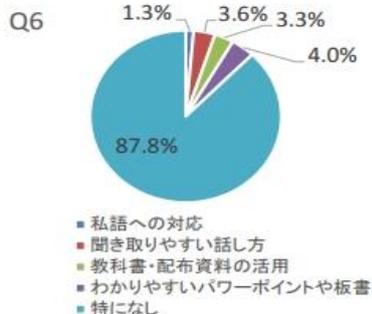
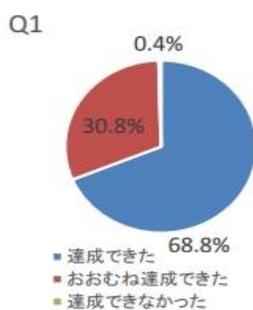
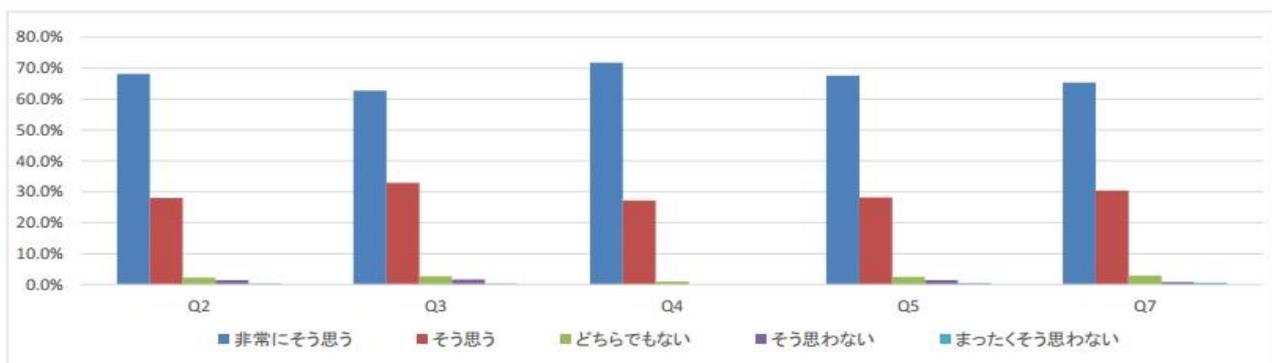
4 - (6). 授業アンケート集計結果 (子ども学科1年生)

●子ども学科1年次生集計

受講人数	回収数	回収率
498	493	99.0%

	1	2	3	4	5	計
Q1	339	152	2	-	-	493
Q2	336	138	11	7	1	493
Q3	309	162	13	8	1	493
Q4	354	134	5	0	0	493
Q5	333	139	12	7	2	493
Q6	7	19	17	21	459	523
Q7	322	150	14	4	3	493
Q8	21	9	27	71	365	493

	1	2	3	4	5	計
Q1	68.8%	30.8%	0.4%	-	-	100.0%
Q2	68.2%	28.0%	2.2%	1.4%	0.2%	100.0%
Q3	62.7%	32.9%	2.6%	1.6%	0.2%	100.0%
Q4	71.8%	27.2%	1.0%	0.0%	0.0%	100.0%
Q5	67.5%	28.2%	2.4%	1.4%	0.4%	100.0%
Q6	1.3%	3.6%	3.3%	4.0%	87.8%	100.0%
Q7	65.3%	30.4%	2.8%	0.8%	0.6%	100.0%
Q8	4.3%	1.8%	5.5%	14.4%	74.0%	100.0%



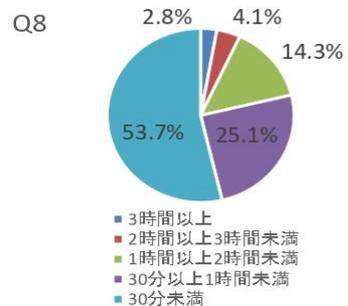
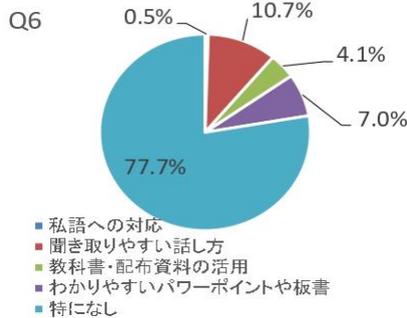
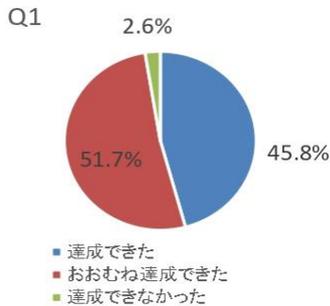
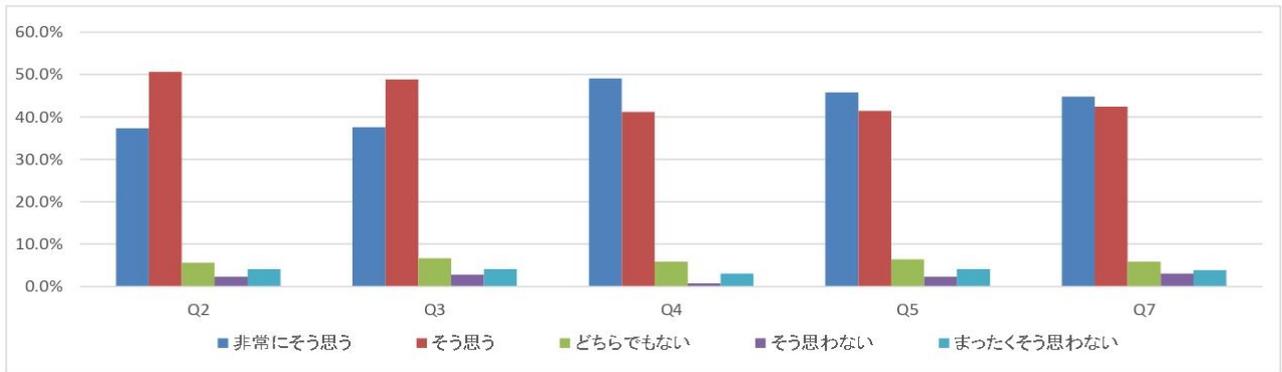
4 - (7). 授業アンケート集計結果 (子ども学科2年生)

●子ども学科2年次生集計

受講人数	回収数	回収率
547	391	71.5%

	1	2	3	4	5	計
Q1	179	202	10	-	-	391
Q2	146	198	22	9	16	391
Q3	147	191	26	11	16	391
Q4	192	161	23	3	12	391
Q5	179	162	25	9	16	391
Q6	2	44	17	29	321	413
Q7	175	166	23	12	15	391
Q8	11	16	56	98	210	391

	1	2	3	4	5	計
Q1	45.8%	51.7%	2.6%	-	-	100.0%
Q2	37.3%	50.6%	5.6%	2.3%	4.1%	100.0%
Q3	37.6%	48.8%	6.6%	2.8%	4.1%	100.0%
Q4	49.1%	41.2%	5.9%	0.8%	3.1%	100.0%
Q5	45.8%	41.4%	6.4%	2.3%	4.1%	100.0%
Q6	0.5%	10.7%	4.1%	7.0%	77.7%	100.0%
Q7	44.8%	42.5%	5.9%	3.1%	3.8%	100.0%
Q8	2.8%	4.1%	14.3%	25.1%	53.7%	100.0%



5 - (1). 全学的考察 (授業アンケート結果について)

今期も昨年度の春学期と同様、8項目の授業アンケートと自由記述を行った。ここでは、その中の5項目のアンケート結果を中心に考察する。

質問項目 (1) あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。

	達成できた	おおむね達成できた	合計
令和3年度春学期	31.5%	65.0%	96.5%
令和3年度秋学期	34.8%	62.7%	97.5%
令和4年度春学期	34.3%	62.8%	97.1%
令和4年度秋学期	40.6%	57.1%	97.7%
令和5年度春学期	50.6%	46.2%	96.8%

「達成できた」と回答した学生は、昨年度同期の春学期から 16.3 ポイントも上昇している。ここ数年と比較してもその高さは顕著であり、非常に優れた傾向であるといえる。しかし、一方「達成できた」と「おおむね達成できた」の合計においては 0.3 ポイント減少している。つまり、「達成できた」と回答している学生が増えた一方で「達成できなかった」と回答した学生がわずかながら増えたことになる。

質問項目 (2) 授業内容は興味・関心が持てましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和3年度春学期	35.6%	53.2%	88.8%
令和3年度秋学期	35.6%	54.5%	90.1%
令和4年度春学期	39.5%	50.0%	89.5%
令和4年度秋学期	44.5%	47.4%	91.9%
令和5年度春学期	55.4%	37.3%	92.7%

「非常にそう思う」と回答した学生は 55.4% で、ここ数年で一番高く、昨年度同期と比較しても 15.9 ポイントの上昇である。令和3年度春学期との比較においては 19.8 ポイントの増加であり、設問 (1) と同じく非常に優れた傾向である。「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計も過去最高で、昨年度春学期より 3.2 ポイント増加している。

質問項目 (3) 授業内容をよく理解できましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和3年度春学期	28.8%	54.7%	83.5%
令和3年度秋学期	28.6%	57.9%	86.5%
令和4年度春学期	30.6%	54.0%	84.6%
令和4年度秋学期	38.1%	52.2%	90.3%
令和5年度春学期	45.2%	45.2%	90.4%

「非常にそう思う」と回答した学生は 45.2% で、昨年度同期より 14.6 ポイント増加した。この質問においても設問 (1) (2) の結果と同じく、ここ数年で一番高い評価である。合計も昨年度同期と比較して 5.8 ポイント増加している。

質問項目（５）学生の理解を促す工夫がなされていましたか。（言葉による説明だけでなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク）

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和３年度春学期	33.7%	52.3%	86.0%
令和３年度秋学期	33.8%	52.5%	86.3%
令和４年度春学期	38.8%	48.9%	87.7%
令和４年度秋学期	42.0%	49.1%	91.1%
令和５年度春学期	54.6%	38.1%	92.7%

「非常にそう思う」と回答した学生は、昨年度春学期よりも15.8ポイント、「非常にそう思う」「そう思う」の合計も、昨年度同期よりも5ポイント増加した。教員の授業の理解を促す工夫が、学生の授業への興味関心や理解度が上昇する結果につながり、設問（１）から（４）の結果と連動していることがうかがえる。

質問項目（８）あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に1週間あたりどのくらいかけましたか。

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（例 ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等）

	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
令和３年度春学期	6.6%	4.8%	12.5%	26.2%	49.9%
令和３年度秋学期	8.9%	7.5%	17.9%	24.3%	41.3%
令和４年度春学期	4.8%	3.7%	15.3%	23.6%	52.8%
令和４年度秋学期	7.3%	7.4%	16.5%	23.5%	45.3%
令和５年度春学期	2.3%	5.8%	21.9%	28.8%	41.2%

自主学修時間が「30分未満」しか時間をかけない学生が41.2%と多い数字ではあるものの、昨年度同期と比べると11.6ポイント減少しており良い傾向である。一方「3時間以上」の時間をかけている学生は同期において年々減少しており、昨年度同期と比べて2.5ポイントの減少となっている。「2時間以上3時間未満」「1時間以上2時間未満」「30分以上1時間未満」の中間層が全体的に増える傾向である。今後、課題の内容や学修の仕方など、さらに丁寧に指導していく必要がある。

5-（2）. 全学的考察（授業の質向上のために）

学生の理解を促す工夫（設問（５））がなされた授業展開について92.7%の学生が満足している結果となり、過去最高となった。講義形式の授業だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組み、グループワークやプレゼンテーションへの主体的な参加、さまざまな資料やICTの活用など、各授業を通して学生の資質・能力を確実に育成する取組を進めていることが反映されたと考える。それに乗じて、授業の到達目標を達成できた（設問（１））、授業内容に興味・関心を持てた（設問（２））、授業内容をよく理解できた（設問（３））、と感じている学生がいずれも増加して9割を超える成果を得ることができている。すべてにおいて、過去を上回る結果であった。

自主学修においては、中間層が増える傾向がみられたが、依然として30分未満の学生は多く、4割以上を占めている。家庭での学修習慣を定着させるためには、個々の学生の学修へのモチベーションや学修意欲の向上が不可欠である。シラバスには、予習・復習の内容と時間を明記しており、反転授業の実施や予習・復習に係る課題も提示しているが、家庭での学習習慣の定着に向けて一層の取組が必要である。自主学習の充実を図るには、授業と自主学習を接続することが大切であり、課題の出し方や評価方法を工夫する必要がある。課題としては、知識等を定着させるための課題や授業の発展的な課題や学生が選択できる課題等、出し方を工夫するなど、学生が

主体的に学びたいと感じ、成果を実感できる自主学修となるよう改善していくことが求められる。

教員のFD研修を計画的に実施し、学生が能動的に学ぶことができる授業の構築をめざして、大学全体として授業の質の向上を図っていききたい。

6－(1)．国文学科全体の考察（授業アンケート結果について）

質問項目（3）「授業内容をよく理解できましたか」について、「非常にそう思う」「そう思う」および両者の合計を過去4年間の同時期と比べると次のようになる。

【表1】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和元年度春学期	14.0%	59.0%	73.0%
令和2年度春学期	22.5%	61.4%	83.9%
令和3年度春学期	23.1%	49.0%	72.1%
令和4年度春学期	24.5%	54.9%	79.4%
令和5年度春学期	33.5%	55.1%	88.6%

昨年度と比較すると、「非常にそう思う」は9%増加しており、過去5年のなかでは圧倒的に高い。また「非常にそう思う」「そう思う」の合計も昨年度より9.2%増加、近年で最も高かった令和2年度と比べても4.7%増加と、最も高い数値を示している。

同じ項目の学年ごとの違いは以下の通りである。

【表2】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年生	27.6%	59.4%	87.0%
2年生	39.4%	50.8%	90.2%

昨年度春学期の同じデータは次の通りである。

【表3】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1年生	37.8%	49.2%	87.0%
2年生	24.8%	56.7%	81.5%

上のふたつのデータ（【表2】【表3】）から、今年度2年生は1年次においても「非常にそう思う」「そう思う」と回答している者が多く、その割合も大きな変化がないこと、今年度1年生は2年生ほどではないが「非常にそう思う」「そう思う」と回答している者が多いこと、がわかる。昨年度秋学期の考察にも記したことだが、授業内容の理解についての自己評価が高い層が着実に増えており、その要因として学生側の努力や授業に臨む姿勢とともに教員の授業上の工夫が考えられる（問題については後ほど述べる）。

質問項目（8）の学習時間について、学年ごとの集計は以下の通りである。

【表5】	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
1年生	1.6%	7.9%	22.0%	27.6%	40.9%
2年生	3.1%	3.6%	21.8%	30.1%	41.5%

昨年度の同じデータは次の通りである。

【表6】	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
1年生	1.4%	4.4%	33.8%	27.0%	33.4%
2年生	15.9%	8.2%	18.3%	27.4%	30.3%

今年度2年生の1年次からの推移をみると、2時間以上の学習時間の層はほぼ変化がないのに対し、1時間以上2時間未満が12%減少、30分未満が8.1%増加しており、全体的に学習時間が減少している。近年は1年次より2年次の方が学習時間が増加する傾向にあった。学年が上がるに従って学習内容が難化すること、課題や

発表も1年次に比べ増加することなどから考えて、学習時間がある程度増加しなければ対応ができなくなるはずであり、最初に検討した授業理解の自己評価の高さも額面通りには受け取れないように思われる。つまり、自己評価と客観的な評価とのズレという問題である。

6-(2). 国文学科全体の考察 (授業の質向上のために)

昨年度秋学期の考察では、学習習慣は少しずつではあるが着実に定着してきていると記した。そしてその根拠として学習時間の伸びを挙げた。しかし上の授業アンケート結果の考察において述べたように、今年度春学期は学習時間の減少がみられ、にもかかわらず授業内容の理解についての自己評価は非常に高いという現象が生じている。

もちろん、学習時間の多寡だけが学習習慣や学習成果の獲得状況をみる指標ではない。効率的な学習を行うことができれば短時間でも十分な学習成果を得ることは可能である。また数年前と比較すれば、現状でも学習時間は増加しているともいえる。

しかしながら、学習成果の獲得状況も踏まえて述べれば、今年度の2年生については十分に学習できているとはいえない。事前学習や準備を一定程度していなければ、発表や討論等を問題なく行うことは不可能である。また学生が事前に資料に目を通したり調査を行ったりしていなければ、反転授業やフィールドワークは効果的に実施できない。

こうした当たり前の原点に立ち戻り、教員は授業の質を向上させ学生に学習成果を獲得させるため、事前事後の学習を含めた学習習慣を学生に身につけさせるように指導する必要がある。大学での学びは授業時間だけで完結するわけではないこと、学習成果を獲得するためにはどのような学習が必要なのか、といったことを粘り強く学生に伝えていく必要がある。

7-(1). 子ども学科全体の考察 (授業アンケート結果について)

①授業アンケート結果について

質問項目2、質問項目3、質問項目5について、3年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。
質問項目2：授業内容に関心が持てたか

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和3年度春学期	37.2%	53.7%	90.9%
令和4年度春学期	41.2%	48.7%	89.9%
令和5年度春学期	52.7%	39.3%	92.0%

質問項目3：授業内容が理解できた

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和3年度春学期	31.1%	56.7%	87.8%
令和4年度春学期	34.1%	53.8%	87.9%
令和5年度春学期	50.1%	40.9%	91.0%

質問項目5：授業に工夫があった

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和3年度春学期	35.5%	52.2%	87.7%
令和4年度春学期	40.6%	47.9%	88.5%
令和5年度春学期	56.7%	34.8%	91.5%

どの項目についても、ここ数年高い評価を示す結果がでており、授業内容への関心が高く、意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。授業内容の理解もできているととらえている学生が大半である。

春学期は、授業内容への関心や理解について、「非常にそう思う」と回答した学生が5割を超えるとともに、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生が9割を超えた。5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、授業でのグループワークや体験活動の充実を図ることができた。また、「授業に工夫があった」についても9割以上の学生が、「非常にそう思う」「そう思う」と回答していることから、教員の授業に対する工夫や努力が学生の授業への関心・意欲を高め、授業内容の理解に繋がったのではないかと考えられる。これまで感染予防の観点から、講義形式の授業も多く、学生自身もストレスのたまる日々が続いていたように思われるが、ようやくアクティブラーニングによる学習が実感できるようになったといえる。半面、経験不足からグループワーク等を苦手とする者も見られ、不安な気持ちをもって授業に臨む学生がいることにも配慮していくことが求められる。

②学生の学修時間について

次に、「当該授業に関する授業外学修時間(週)」について、4年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目8：当該授業に関する授業外学修時間(週)

	3時間以上	2時間以上～3時間未満	1時間以上～2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満
令和2年度 春学期	12.7%	9.8%	24.5%	19.7%	33.4%
令和3年度 春学期	6.2%	4.5%	12.8%	24.8%	51.7%
令和4年度 春学期	4.3%	2.8%	10.8%	21.7%	60.5%
令和5年度 春学期	3.5%	3.0%	9.9%	19.7%	63.9%

1週間あたりの自主学修の時間は、年々減少傾向にある。令和2年度は、コロナ禍で遠隔授業が取り入れられ、レポートや課題の作成が求められたことで家庭での学修時間が必然的に増加していた。しかし、令和3年度以降、対面での授業に移行し、かなり自主学修の時間が減少している。そして、春学期は自主学修の時間がより一層減った。

また、春学期の1年生と2年生の「当該授業に関する授業外学修時間(週)」を比較すると、次のような結果となった。

	3時間以上	2時間以上～3時間未満	1時間以上～2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満
令和5年度 春学期					
子ども学科 1年生	4.3%	1.8%	5.5%	14.4%	74.0%
子ども学科 2年生	2.8%	4.1%	14.3%	25.1%	53.7%

両学年とも、「30分未満」の学生が5割を超えるという結果は、大きな課題である。特に、現1年生の「30分未満」に回答した学生については、7割を超えている。昨年度の1年生の回答と比較しても10ポイント以上増加しており、深刻な課題としてとらえ、現1年生へのこれからの指導を充実していく必要がある。

授業で出された課題に対して再度学びをふり返り、自分で調べたり考えたりして、学びを確かなものにしていくことが自主的な学びの姿勢につながる。教員の課題の出し方を工夫するとともに、今後の学生に求められる学びの姿勢として引き続き指導していきたい。

③前年度または前学期の授業アンケート考察時から改善されたことについて

授業の質的な向上に向けた取組みの成果は継続されており、学生のアンケート結果として着実に出てきている。教員は、遠隔授業の経験からアクティブラーニングや体験的活動の価値を再確認し、それらを実践していく力量を

つけなければならないことを自覚できたように思う。

今後も、学生の学習に対する意欲や関心、また不安な気持ちについての把握に努め、本学としてのアクティブラーニングの充実に努めていきたい。

7-(2). 子ども学科全体の考察 (授業の質向上のために)

PROG や教学 IR の学修成果の査定の結果をもとに、目の前の学生に力をつけていくためには、授業をどのようにしていけばよいのかを考えていくことが重要ととらえている。今後も引き続き、学科として、「授業の質の向上」の取り組みを進め、グループワークや体験授業等アクティブラーニングを取り入れた授業実践を、様々な授業形態において進めていきたい。アクティブラーニングを積極的に取り入れることで、そうしたことに意欲的に臨む姿勢を学生に植え付けていきたい。特に基礎力プログラムにおいては、2年間の学びを充実させるためにも、学び方の指導や chromebook の活用に係る指導の充実に努めていきたい。

学科目標に掲げている「授業の質の向上」をより一層進めるためにも、教員が授業に対して創意工夫のある取り組みを推進することが重要であり、研修の機会を充実していくことも大切であると考え。併せて、学生の学ぶ意欲、資格免許を取得するという強い意志を育て、主体的な学習態度や困難や不安を乗り越える力の育成にも取り組んでいく必要がある。

8. 授業アンケート回答率の推移

本学では、令和元(2019)年度より電子媒体である学生ポータルサイト (Campus Plan portal) を利用して授業アンケートを実施している。

本学では授業アンケートは無記名式の回答である。

今学期と過去3年間について、回答率の推移を学科・学年別に比較する。

	国文学科		子ども学科		全学	
	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講
令和2年度春学期	85.9%	511/595	89.6%	1097/1224	88.4%	1608/1819
令和2年度秋学期	76.1%	388/510	83.2%	939/1129	81.0%	1327/1639
令和3年度春学期	90.7%	556/613	86.8%	1426/1642	87.9%	1982/2255
令和3年度秋学期	90.0%	497/552	82.7%	1340/1620	84.6%	1837/2172
令和4年度春学期	88.6%	504/569	81.7%	1221/1494	83.6%	1725/2063
令和4年度秋学期	92.1%	395/429	76.0%	1040/1398	79.9%	1435/1797
令和5年度春学期	98.9%	447/452	84.6%	884/1045	88.9%	1331/1497
平均・合計	88.7%	3298/3720	83.2%	7947/9552	84.9%	11245/13242

一般的に大学で学生にアンケートを実施する際は、紙媒体の方が電子媒体よりも回収率が高いといわれている。本学は今年度で電子媒体での授業アンケートの実施は5年目に入り、在学生は全員が入学時より電子媒体で授業アンケートに回答している。学生がポータルサイトや機器の使用方法にも慣れてきている。昨年度と比較すると国文学科、子ども学科共に増加している。国文学科は過去最高の回収率となっている。しかし、子ども学科の1年生の回収率は99%と高いが、2年生が71.5%と低い。学生の状況を見ていると、2年生は15回の授業の間に3週間教育実習で抜けるなど継続的に学ぶ意識の低下や、アンケートに対する意識の低さがあるのではないかと考えられる。改善につながるよう努めていく。

これからも学生が安心して回答できるよう、授業アンケートは無記名式かつ電子媒体での実施を継続する予定である。次年度以降も引き続き、まず学生の声を聴き授業改善について検討する材料を十分集められるよう、授業内での確実な授業アンケートの実施に努めていく。

以上